

今考える、外来鳥類問題

金井 裕(日本野鳥の会)・石田健(東京大学)

日本においても外来生物による生態系改変が大きな問題となり、これを防ぐために外来生物被害対策法が本年6月に施行された。鳥類においてもソウシチョウやガビチョウなどチドリ科の鳥類4種が規制の必要な特定外来生物に指定された。外来生物問題では、鳥類はマングースによるヤンバルクイナの捕食など、外来生物による被害が注目されてきた。しかし、江口らが示したように、日本には多くの外来鳥類の繁殖が記録されており、これら外来鳥類の定着状況や生態系に与える影響についても考えなければならない。しかし、鳥類研究者による外来鳥類による生態系等への影響の評価は、まだあまり行われていない。ここでは、施行された外来生物対策法について紹介するとともに、外来鳥類の生息現況について最新の情報を整理し、外来鳥類問題に対していかに取り組んでいくか、意見交換を行いたい。

話題提供

●外来鳥類が起こす恐れのある生態系への影響(江口和洋・九州大学)

外来鳥類問題に取り組んでこられた九州大学の江口博士より、外来鳥類が引き起こす恐れのある生態系等への影響について話していただきます。

●外来生物被害対策法の運用状況(環境省・外来生物担当)

環境省の外来生物対策法の担当官から、法律の内容や運用について解説していただきます。

●外来鳥類全般の生息現況とNGOによる取り組み(金井 裕・日本野鳥の会)

最近の外来鳥類の生息現況と、NGOの立場から行っている外来鳥類対策への提言についてお話しします。

●鳥類研究者に求められること・外来生物専門家会合報告(石田健・東京大学)

特定外来生物選定のための外来生物専門家会合(哺乳類・鳥類)での検討状況をお話します。

●今後の取り組み(意見交換)

コメンテータ:天野一葉(WWF ジャパン)、佐藤重穂(森林総研四国支所)

東條一史(森林総研)、神谷要(中海水鳥国際交流基金財団)

成末雅恵(日本野鳥の会)ほか

話題提供をいただいた後で、外来鳥類の研究や対策に関わっている方々をコメンテーターになっていただき、今後必要となる基礎研究や防除対策の開発や実施体制、また社会一般への普及教育に対して、個々の研究者、あるいは学会や行政など組織としてのどのようにかかわるか、意見交換を行います。